

第1回 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク関係者会議議事次第(案)

日時：平成16年10月29日(金)11時~2時半

場所：筑波技術短期大学天久保キャンパス(聴覚部)管理棟4階 大会議室

議題：ネットワーク設立の経緯と主旨説明
各大学の現状・今後の連携可能性について
年間計画について

司会：根本 匡文

11:00	開会	
11:05~11:25	挨拶 筑波技術短期大学長	大沼 直紀
11:25~11:30	挨拶 日本財団国際部国際企画課長	石井 靖乃
11:30~11:50	ネットワーク設立の経緯と主旨説明	白澤 麻弓
11:50~12:00	質疑応答	
12:00~13:30	<昼食> 各大学の現状紹介 今後の連携可能性について	
13:30~14:15	年度計画について 第2回アメリカ視察予定について	
14:15~14:25	挨拶 障害者高等教育センター長	小林 庸浩
	<休憩>	
14:30~15:00	学内見学(30分)	白澤麻弓
15:00~15:30	遠隔地手話通訳システム(30分)	河野純大
15:30~16:00	図書館・障害者高等教育センター(30分)	
16:00~16:30	遠隔地リアルタイム字幕提示システム(30分)	三好茂樹

連携先諸機関：

宮城県・仙台市情報保障支援センター 松崎丈氏
関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子氏
東京大学バリアフリー支援室 伊藤聡知氏
メディア教育開発センター（広瀬洋子氏）
静岡福祉大学 太田晴康氏
群馬大学 金澤貴之氏
愛知教育大学（都築繁幸氏）/岩田吉生氏
日本福祉大学 大泉溥氏
同志社大学 土橋恵美子氏
広島大学 田中芳則氏
愛媛大学 高橋信雄氏/原田美藤氏
福岡教育大学 太田富雄氏（敬称略・順不同、カッコは欠席）

筑波技術短期大学学長 大沼直紀
筑波技術短期大学障害者高等教育センター長 小林庸浩
筑波技術短期大学障害者高等教育センター相談・支援室聴覚系 WG 根本匡文

資料

- ・ 高等教育機関における聴覚障害学生支援ネットワークの構築について
- ・ 各大学の現状紹介
- ・ 第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察計画書

参考資料

- ・ 第1回アメリカ視察報告会（於・日本福祉大学）資料

高等教育機関における聴覚障害学生支援ネットワークの構築について

1. 目的

高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の支援体制整備のため、各地域の中核になりうる大学および支援団体間のネットワークを構築し、聴覚障害学生に対する支援技術の蓄積、情報の共有、および他大学に対する情報発信を目指す。

2. ネットワークの概要

現時点において障害学生支援委員会を持つなど、大学として積極的に聴覚障害学生に対する支援を進めている大学およびすでに地域の中核となっているサポート団体を対象とし、定期的な会合を持つとともに、大学同士の相互訪問や先進国視察等を通して、聴覚障害学生支援に必要とされる知識・技術を蓄積する。同時に聴覚障害学生支援に関する情報を一元化し、インターネット等を通して他大学に対して発信していくと共に、全国に向けた定期的なシンポジウムを開催して、国内全体の聴覚障害学生支援体制の向上を目指すものとする。



3. 活動内容

1) 聴覚障害学生支援関連データベースの作成

聴覚障害学生支援体制に関する全国調査を実施し、全国の各大学における聴覚障害学生サポートの現状に関する基礎資料を収集するとともに、実際の大学におけるサポート事例や養成講座のカリキュラム例、補聴システムの活用例、諸外国の状況等を含めた関連資料を一元化し、データベースとしてインターネット等に公開する（筑波技術短期大学相談・支援室において全国調査進行中）。

2) 大学間の相互交流

ネットワークに加盟している中核大学を中心に相互に大学を訪問し、養成講座の見学や授業への参加、学生・通訳者との懇談、事例検討会の実施等を通して、支援体制の具体的な実施方法や施設・設備等について情報を交換する。

3) 学生間の相互交流

聴覚障害学生および支援学生と共に他大学を訪問し、授業への参加、情報交換、懇親会の開催等を通して、学生相互の交流をはかると共に、エンパワメントの場を提供する（筑波技術短期大学、日本福祉大学、宮城聴覚障害学生の会を中心に展開予定。平成17年度以降実施予定）。

4) 研究大会の開催

各大学における支援事例や研究成果を他大学に向けて発信するための場として、研究大会(1回/年)を実施する。大会の開催は各大学持ち回りとし、参加者・発表者は全国より募るものとする。

5) 研究開発

各大学の特性を生かし、教職員啓発プログラムの開発、聴覚障害学生を支援する専門的支援者(手話通訳者、ノートテイク等)の養成カリキュラム策定及び養成・派遣の実施、IT技術を活用した支援システムの開発等、領域別に分担して聴覚障害学生支援技術を開発し、その成果を共有するとともに、他大学に対して情報発信を行う(平成17年度以降実施予定)。

6) 定期的な会合の開催およびメーリングリストによる情報交換

以上の活動を継続化するために、定期的に会合を設け意見交換を行う(1回/2~3ヶ月)。また、メーリングリストを開設し、日常的な情報交換に役立てる。

7) その他

各大学の提案に基づき、ワークショップや講演会、各種企画等を開催する。

4. 平成16年度事業計画

7月中旬~12月	聴覚障害学生高等教育全国調査の実施(進行中)
10月	第1回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合 技短
10~2月	全国調査まとめ、データベースの構築
1月	第2回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合
3月	アメリカ視察(NTID・NETAC・ギャローデット他10日間)

随時: 大学訪問、相互交流、学生同士の交流

平成17年度事業計画

4月~5月	第1回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合(視察報告会兼) 技短
4~2月	大学訪問、相互交流、学生同士の交流
7月	第2回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合
11月	第3回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合
2月	第3回聴覚障害学生高等教育ネットワーク会合

第1回聴覚障害学生高等教育シンポジウムの開催、学生交流企画

随時: 大学訪問、相互交流、学生同士の交流

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター

目的

宮城県における中等・高等教育機関に対して聴覚障害学生支援サービスを供給・提供し、最終的に教育機関が主体的に聴覚障害学生支援に取り組めるようになることを目指す。

宮城県の実態

宮城県の中・高等教育機関における聴覚障害学生の実態（平成16年度現在）

- (1) 大学：14校……………21名
 - (2) 短期大学：7校……………1名
 - (3) 専門学校・高等学校：約120校…約15名
- 宮城県聴覚障害学生の会の調査より

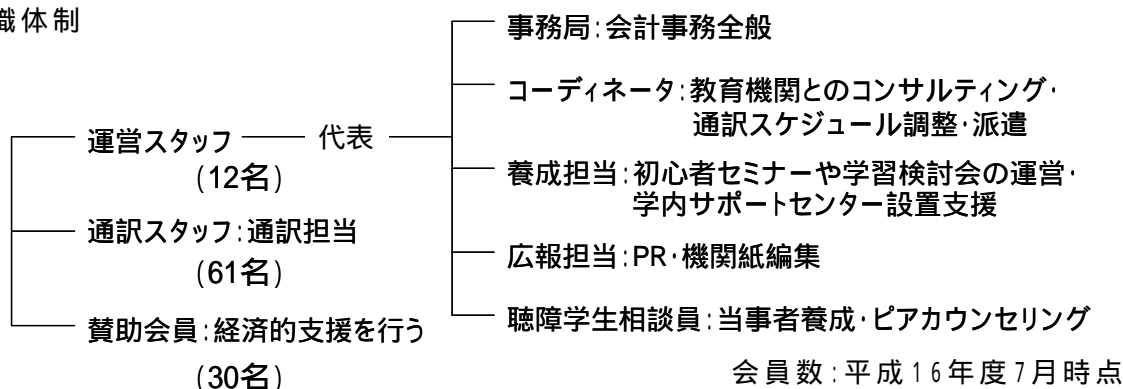
支援センターの組織概要

1. 発足年月日 平成15年4月1日

2. 組織形態 任意団体 賛助会員制や助成金申請によって運営している。

平成15年度では宮城県から青少年課青年団体育成推進事業助成金を受けた。

3. 組織体制



4. 本年度活動実績

通訳スタッフ派遣

対象：4年制大学（3校）、短期大学（1校）、高等学校（1校） 各校1名に派遣

派遣件数：計500件

学内サポートセンター設置支援

前期派遣：4年制大学（3校）、短期大学（1校）

内容：初心者養成セミナー実施と、学内サポートプランに関わるコンサルティング

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター

< 事務所連絡先 >

981-0908 仙台市青葉区東照宮1-17-1-116

Fax: 022-233-9571 Phone: 090-2020-4012

e-mail: haken-center@ezweb.ne.jp



東京大学バリアフリー支援室における 聴覚障害学生支援の取り組み

東京大学バリアフリー支援室における聴覚障害学生支援の特長:

- 支援室は13名の室員と3名の職員の16名体制です。
- 障害学生とコーディネーターが連絡を取りあい、限られた予算を活用し、学生のニーズにあった支援を行います。
- できるだけクオリティの高い支援を目指します。
- 聴覚障害のある学生だけではなく、聴覚障害のある教職員の支援も行います。

バリアフリー支援室の体制

東京大学バリアフリー支援室は平成14年10月1日、バリアフリー支援準備室という名称で、障害のある学生への支援を開始しました。平成16年4月1日には、バリアフリー支援準備室からバリアフリー支援室へ名称が変更になり、障害のある学生・教職員の両方の支援をスタートしました。

現在は、教職員で構成される13名の室員、および、コーディネートと事務を行う3名の職員、合計16名の体制で支援の業務を行っています。

支援に関する全般的な事項や全学的な対応については、バリアフリー支援室会議において話し合われます。また、3名の職員が常時バリアフリー支援室に在室し、日常的なコーディネートや事務の業務を行います。

ニーズにあった支援

平成16年10月1日現在、東京大学バリアフリー支援室は、全盲4名、弱視1名、難聴1名、肢体不自由1名の方々に支援を行っています。支援は申し込み制で、支援を希望しない障害学生には支援がありません。

支援の内容や時間は、障害学生とコーディネーターとの打合せにより決定します。コーディネーターは、合理的配慮の提供を行うために、関係者との相談も進めながら支援の内容を検討します。

個別のニーズにあった支援を行うために、バリアフリー支援室が提供する支援は、一人一人支援の内容や提供する支援時間が異なります。

バリアフリー支援室の予算には限りがあるので、障害学生が希望するすべての支援を行えないこともあります。そのような時は、コーディネーターが、希望する支援に代わる支援を用意します。

クオリティの高い支援

障害学生への支援を行う時、学生のニーズを満たしながら、常に支援の質を高くしていかなければなりません。そのためには、コーディネーターが日々情報収集に努める必要があります。また、障害や技術について研究や実践を行っている人々と連携して、よい支援を取り入れていく必要があります。東京大学バリアフリー支援室は、東京大学先端科学技術研究センター・バリアフリープロジェクトなどと連携しながら、常に良質の支援を目指しています。

教職員の支援

大学のバリアフリー化に必要なのは障害学生の支援だけではなく、障害のある学生の支援だけではなく、障害のある教職員についても、必要な支援を行っています。これには手話通訳や指文字通訳などが含まれています。

現状と今後

現在、聴覚障害については難聴の学生が1名いるだけで、主に要約筆記の支援が中心となっています。今後、手話を使う学生が入学した場合でも、本人のニーズに対応できる支援を行えるよう、今から準備を行っています。



バリアフリー支援室の様子

連絡先:

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学先端科学技術研究センター3号館503

東京大学バリアフリー支援室 (コーディネーター:伊藤)

TEL 03-5452-5067 / FAX 03-5452-5068

E-mail spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

URL <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/office/ds/>

独立行政法人メディア教育開発センター(NIME)では、研究開発部門に多様な学生への支援プロジェクトを正式に位置づけ、全国の大学及び高等教育機関の障害者支援にかかわる教職員を支援するための研究・開発を行なっております。その内容をご紹介させていただきたいと思っております。

■ 教材ビデオ製作

ビデオ教材開発の一環として、2003年度にビデオ教材「USA発 高等教育のバリアフリー」(VHS 33分)を制作いたしました。高等教育における障害者支援でいつも課題となる大学等の支援局について、米国のオレゴン州の大学とコミュニティカレッジを中心に米国の社会的背景も踏まえてわかりやすくビデオ化したものです。2002年制作の、日本の一般大学に学ぶ障害学生の日々の生活を描いた「高等教育のバリアフリーを目指して」(VHS 33分)とあわせて、ご覧いただくと幸いです。

■ 放送大学TV講義

上記ビデオの映像素材を再編集し、日本で障害者支援が進んでいる広島大学のボランティア活動室の様子や関係者のインタビューを加えた特別講義です。

2004年度放送大学のTV特別講義:「高等教育のユニバーサルデザイン」(45分番組)

(講師 広瀬 洋子 メディア教育開発センター)

後期TV授業放送予定日は[放送大学ページへ](#)

この放送は放送大学専用のアンテナ受信のほかに、CATV、デジタル衛星放送(SKY PerfectTV)でもご覧いただけます。

■ 障害者支援にかかわるFD講座

NIMEでは大学教員向けに障害者支援のFD講座をSCS(衛星を使ったTV会議)でも行なっております。

http://www.nime.ac.jp/KENSYU/kensyu_h16/005/main.html

■ 障害者支援情報サイト

内外の障害者支援の情報発信をウェブサイトからも行なっております。これまでのSCS活用FD支援のサイトも掲載されております。<http://www.nime.ac.jp/~hirose/>

以上ご質問・ご意見等ございましたら、下記にご連絡下さい。

独立行政法人メディア教育開発センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12 TEL 043-276-1111(代表)

研究開発部:障害者支援プロジェクト 広瀬洋子 hirose@nime.ac.jp

関連サイト <http://www.nime.ac.jp/~disable/>
<http://www.nime.ac.jp/~hirose/>

日本福祉大学における聴覚障害学生の支援状況

日本福祉大学障害学生支援センター長 大泉 溥

(1) 在籍している障害学生の数

日本福祉大学では4つの学部と大学院に約6500名(通信教育課程を除く)の中に115名の身体障害学生が在籍しており、その中の65名(聴覚障害34/47、視覚障害10/15、肢体不自由21/47、内部疾患など0/6)が障害学生支援センターのコーディネイトによるサポートを受けている(この他、軽度発達障害・高次脳機能障害の学生にも障害学生支援センターが部分的に対応)。

(2) 聴覚障害学生への対応(経緯と現状)

開学の当初(1953)から重度肢体不自由学生が在籍。1970年に点字入試実施。初めて車椅子学生を受け入れた1970年代中頃から聴覚障害学生への意識的な対応が始まる。講義室にループアンテナ敷設しFM補聴器を使用(1975年)学生サークルがノートテイクや手話通訳を自主的に実施。1980年頃より卒業式で学生サークルが手話通訳を実施。

「1989年度障害学生実態調査」をもとに論議して、1992年に大学として「障害学生の勉学生生活条件改善委員会」を発足させ、入学式や卒業式に大学として手話通訳と要約筆記を実施し(外部委託)また障害学生奨学金支給制度を開始。

1998年に専従スタッフの常駐する「障害学生支援センター」が発足。ノートテイクや手話通訳をはじめとするボランティアのコーディネイトを開始(ボランティア保険に大学経費で加入、ボランティア奨励金制度を開始)2001年度に受講問題実態調査を実施教授との連携の必要を確認。

近年、要支援の聴覚障害学生は激増(2001年度11名、2002年度19名、2003年度32名、2004年度34名)。そのため、2002年に従来型の受講ノートテイクの体制がパンクしまった。そこで、OHCノートテイクを試行したところ、聴覚障害学生にも好評だった(受講自由度の増大)。

2003年にOHCシステムを本格的に導入して、支援センター・スタッフを2名体制とし、受講アシスタント10名(TA=アルバイト待遇)を配置した。

今年度は支援センター・スタッフ2名に、手話のできる支援センター教員1名を加え、受講アシスタント20名(TA)の体制となっている。これに、約300名のボランティア学生の協力を得て(ノートテイク182名、手話通訳15名など)65名の障害学生支援を行っている。

(3) 日本福祉大学の対応の特徴と課題

障害学生とサポート学生、教職員が「ともに育ち合う」ことを基本とするサポートシステムを発展させてきた。これは知多半島の最先端という大学の立地条件とも関係して、障害者支援団体の協力を常時得ることは大変困難なためでもある。入学式直後の「支援センターオリエンテーション」1年生担当の「ボランティア論」での障害学生支援経験の紹介と勧誘。

講義関係科目は基本的にノートテイクで、情報処理演習などの特定科目のみ手話通訳というサポート方式でやってきた。ビデオ字幕入れも支援サークルが対応。

ボランティア学生にはサポートの経験交流とスキルアップのための講座をサポート種別に毎年実施してきた。今年度からはTA研修を本格化(毎月1回)。

障害学生の自覚と自立を前提としたサポートシステムが曲がり角に来ているように思われる(障害学生のエンパワメントの必要性増大とボランティア方式のサポートシステムをどう展開させていくのか=本学の伝統である「育ち合う気風」の醸成方法は?)。

(4) 全国ネットワークに期待するもの

聴覚障害学生支援のガイドブックの作成

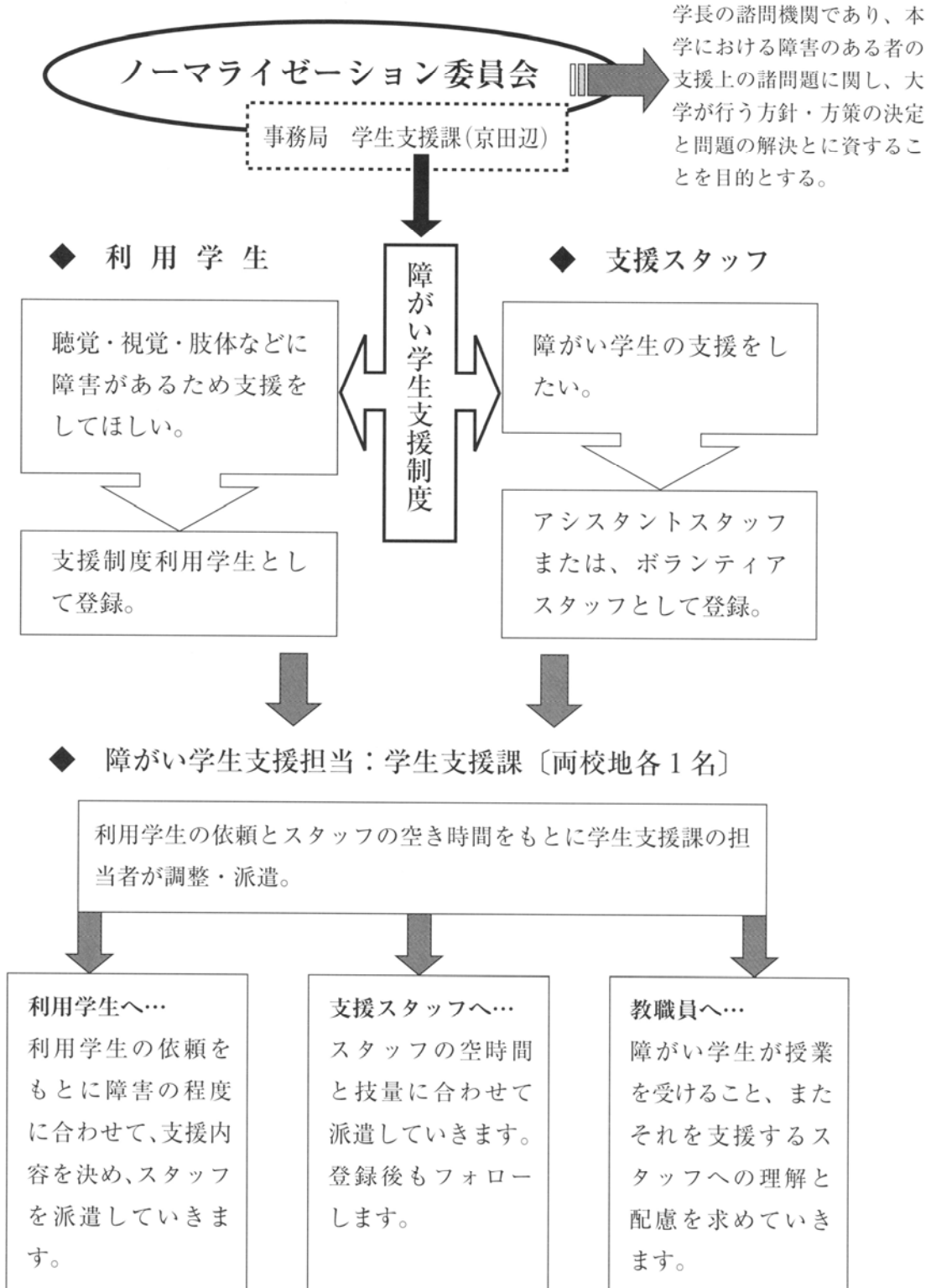
聴覚障害学生および支援スタッフための経験交流と研修会の開催

海外交流、情報交換、その他

[参考資料]

『日本福祉大学障害学生支援センター年報 第5号』および『キャンパスガイド 2004』

《障がい学生支援制度：制度登録の流れ》



参考資料

障がい学生支援制度 案内パンフレット<2004>

障がい学生支援制度 教職員のための手引き

広島大学での聴覚障害学生支援に関する取り組みについて

広島大学障害学生支援のためのボランティア活動室 田中芳則

1. 組織・支援体制

広島大学には、教育室障害学生就学支援部会(以下、部会)のもとに就学支援検討グループがあり、実際の支援拠点として平成12年9月からボランティア活動室(以下、活動室)が設置されている。活動室では平成12年度に情報支援コーディネーターを、平成13年度より専任教員と情報支援コーディネーターを配置している。平成15年度からは障害学生の所属する学部に学生コーディネーターを配置し、部会委員と障害学生とのパイプ役を行っている。また平成12年度には身体等に障害のある者の入学者選抜及び就学等に関する相談の指針、平成13年度には広島大学の障害学生の就学等の支援に関する規程(現、規則)を作成し、制度を整備して全学的支援を行っている。

2. 授業支援の流れ(時間順)

(1) 試験前相談・合格後相談

試験前相談は、受験希望者から提出された申請書をもとに受験での特別措置を具体的に決めていく。入試時の座席指定、FM補聴器の使用許可、注意事項の文書伝達等があり、個人に合わせた配慮を検討する。合格後相談は合格が決まれば直ちに合格者の所属学部で話しを行い、就学等の特別措置や特別な配慮が決められる。なお入学後に就学支援の申請があった場合にも合格後相談を行う。

(2) 授業前支援

授業前支援には受講希望科目の聴取、授業担当教員への問い合わせ、困難が予想される授業科目についての対応、抽選免除などの協議も含まれる。

(3) 授業中の支援

授業中の支援ではノートテイク・パソコンノートテイク、ビデオの文字おこし・字幕挿入による情報保障に関する支援のほか、座席指定がある。

(4) 期末試験・レポートに関する支援

身体等に障害のある学生が他の学生と同じ基準で評価されるよう、試験等の評価基準を変更せず、その伝達方法及び解答方法を、その学生に応じて変更を加えて、学生の不利益にならないようにしている。

障害のある学生が特別措置申請を行うことで実施される。

(5) 受講体験聴取

学期半期終了後、障害学生から受講体験を聴取する。これより授業での配慮が適切か、どうかをインタビュー形式で自由に話し合う。これをもとに配慮事項を見直し、次学期に向けての就学支援を行う。

3. 支援内容

(1) 授業中の支援

1) ノートテイク・パソコンノートテイク

聴覚障害学生1名あたり、2人を派遣している。

2) ビデオの文字おこし・字幕挿入

1週間ごとのスケジュールで文字おこしを行いシナリオを作成することと、ビデオテープにコピーガードがない場合に字幕を挿入している。

(2) 講義

1) 障害者支援ボランティア概論(以下、概論)

平成13年度より夏期集中講義として3日間(15コマ:1コマが1時間30分)開講している。障害者に対する医学的、社会的、技術的な知識をコンパクトにまとめ、概要を身につけてもらうことが目的となっており、続けて開講される「障害学生支援ボランティア実習A」のための基礎となっている。4つの学部の教員がオムニバス形式で講義を行う。

2) 障害学生支援ボランティア実習A,B

「概論」を受講した学生の多くが履修し、支援者を養成するために開講している。この授業を通して広島大学に在籍する20名の障害学生(聴覚は4名)への具体的な支援活動を行うことで単位修得ができる。支援内容はノートテイクと文字おこしである。

4. その他

なお平成14年度から教養的教育から専門教育へ範囲を広げたこと、平成15年度には学生コーディネーターを配置したこと、そしてこれまで夏期集中講義や学外での情報保障にはノートテイクを派遣できなかったが、平成16年度、有償ボランティア制度の開始によって、派遣できるようになった。

福岡教育大学附属障害児治療教育センター

太田 富雄

e-mail tomiohta@fukuoka-edu.ac.jp

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~tomiohta/index.htm>

1. 在籍数： 1（視覚障害） 生涯スポーツ芸術課程芸術コース
2. 組織： 障害学生受入懇談会
支援内容等は入学時に出身校教諭、本人、所属専攻主任、学生課等で相談。
点字プリンタ、読み上げソフト等を整備。
学内の授業担当教員には、支援のマニュアルを配布。
学期終了後に授業担当者からの意見・感想を集約し、修正点を修正。
3. 支援内容：同専攻の同級生によるボランティア。
ノートテイク、対面朗読。音楽実技が主なため、一般学生では難しい。
4. その他
FDとしてFD研究会の「障害児教育と通常教育分科会」を設け活動。
活動報告(平成13～15年度)は下記URLで閲覧、ダウンロードできます。
<http://www-fue.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
また、NIME主催のSCS研修(平成13～15年度)については下記URLで
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~tomiohta/scsshien.htm>

第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察計画書

目的 米国の聴覚障害学生サポートプログラムの視察を通して、我が国におけるよりよい聴覚障害学生支援体制について検討する。

期間 平成17年3月13日(日)～3月24日(木)

派遣地 ニューヨーク州ロチェスター市、ニューヨーク市、ニュージャージー州

研修内容 ロチェスター工科大学(RIT)における聴覚障害学生サポートプログラム、国立聾工科大学(NTID)内の通訳者養成プログラム、北東地区テクニカルアシスタントセンター(NETAC)が管轄するニューヨークサイト、Temple大学の聴覚障害学生サポートプログラム等の見学

参加者 筑波技術短期大学教職員・連携大学教職員他(10名)
手話通訳者(2名)
音声通訳(2名)(現地にて)

日程表

3月13日	日	ロチェスター着		音声通訳
3月14日	月	RIT見学	RIT内で提供されている通訳、ノートテイク、チューター、カウンセリング、C-Preint等のサービスを視察。	仲村
3月15日	火			仲村・田村
3月16日	水	NETACコーディネーターとの懇談	各州のNETACコーディネーターとの懇談。PEPNetの概要、各サイトコーディネーターの役割、これまでに行ってきた取り組み、予算等。	仲村・田村
3月17日	木			仲村・田村
3月18日	金	通訳養成プログラム視察	手話通訳者養成カリキュラムの視察。派遣の現状、RIT内での派遣の詳細等について懇談。	仲村・田村
3月19日	土	フリー		
3月20日	日	NYへ移動		
3月21日	月	NETACサイト見学	NETACサイトが設置されている大学内のサポート視察。学外へのサポート内容についての懇談。	仲村・田村
3月22日	火	Temple University 見学	ニュージャージー州のNETACサイトからサポートを受けている大学の視察。サイトコーディネーターも同行予定。	仲村・田村
3月23日	水	ニューヨーク発		
3月24日	木	日本着		